

---

# 北の魔女のキタは言った。

ヘッドホン侍s

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

北の魔女のキタは言った。

### 【Nコード】

N5827Z

### 【作者名】

ヘッドホン侍s

### 【あらすじ】

キタの方に住んでいる魔女、キタと申します。あくまでフィクションとして、わたしの悩みを打ち明けていきたいと思います。あくまでもフィクションとして。

## 自己紹介

やあ、みなさん。性別はメス。名前はキタ。地球でいうと北、日本でいうと北の方に分布している。

はつきり言おう。

わたしは、魔女だ。

所謂、魔女というやつは、何という定義自体曖昧であろうが、そういう奴だ。

わたし自身、自分が何者かなんて分からない。

皆さんだってそうだろう？自分は人間だと周りに言われているから、そう思っているだけで、ホントのところは分からない。

ある日、突然、思いもよらず妙な能力を発揮するかもしれないぞ。こついうのを、昨今では『中二病』と言っらしいな。

でもわたしがそうだったんだ。世の中、何が起こるか分かったもんじゃないぞ。期待しな、中二病患者たち。

そして、はつきし言って難だが、わたしは人間が大好きだ。

おおよそ、魔女は人間嫌いとか言う定説があるが、……期待を裏切って申し訳ない。

それどころか、わたしは今人間を愛している。

申し訳ないな。

しかも、それも、草食系男子とかいうやつで、しこたま可愛い。

ひとり悶絶するもなんだ。

時代は、Internet。

しかし、某つぶやきなどというものは、わたしが中二病患者として痛い痛いしてしまう。

ゆえ、そうだ。フィクションとして、載せてしまえという魂胆で、この小説もどきを書いてみることにした。

はじめる。

で、その草食系男子との交流なんだが、アフロ之助が道に迷ったことから始まった。

あ、アフロ之助というのは、わたしに遣えている超下級悪魔だ。行使は、紙屑ひとつで請け負ってくれる。

最近は何んでも付箋紙にハマっているらしい。  
細さと薄さとパリパリ感、微妙にかかったノリが絶妙なハーモニ  
ーを奏でていて、癖になる…とか言っていた。

って、そんなことはどうでもよくて、草食系男子についてだった  
な。

草食系男子、えーと…これはフィクションとっていいなっ  
てい、本名でいいよな。

草食系男子、清水優<sup>しみずゆう</sup>は写真部部長の県立高校に通う高校二年生で  
ある。

少し前の夏のある日。

「散歩行ってくるである。」

と出て行ったアイツがお昼ご飯に帰ってこないの、心配になって散歩コースの山に行ってみることにした。

因みにアフロ之助は、ごっつい方向音痴で、かつ腹が減ると動けなくなるたちの悪い質をもっている。

そういうわけで、山の中をだいぶ、散策することになったわたしだったが、…普段の運動不足が、重石となって、わたしすら力尽きそうになった。

それが、途中の東屋だった。

そこに、干からびかけたアフロ之助を保護した、清水優がいたのだ。

「これ君のペット？」

「ん、ああ…」

そこまで言ってわたしは意識を失った。

次に、わたしが目を覚ましたときの記憶は温もりからはじまる。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5827z/>

---

北の魔女のキタは言った。

2011年12月20日21時52分発行